

科目名	映像（放送）制作概論				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	1	単位時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像制作の基礎からテレビ番組制作まで幅広い知識を得る。 2. 台本作成・撮影・編集・MAの制作工程を学ぶ。 3. 発想力、自主性、を作品制作を通じて身に付ける。				
学習目標 （到達目標）	①テレビ制作を学ぶうえでの心構えと、映像を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。 ②グループワークを通して、積極的なコミュニケーションを取れる人材を育成する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～4	テレビ業界研究Ⅰ		テレビ業界での必要な心構え、専門用語等の基礎知識を学ぶ		
5～9	テレビ業界研究Ⅱ		実際のテレビ制作の現場を見学する		
10～14	テレビ番組研究		テレビ番組の種類、現在のトレンドを研究する		
15～19	企画		いままでに無いテレビ番組を考え、企画書にまとめる		
20～24	企画Ⅱ		企画にまとめた内容をプレゼンテーションする。		
25～29	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容で学内コンペを行う。		
30～34	企画Ⅳ		コンペの内容をブラッシュアップする		
35～39	番組台本作Ⅰ		企画内容にそった台本の制作を行う		
40～44	番組台本作Ⅱ		企画内容にそった台本の制作を行う		
45～49	番組台本作Ⅲ		企画内容にそった台本の制作を行う		
50～54	制作実習Ⅰ		台本の内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
55～59	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
60～64	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
65～71	撮影編集実習Ⅰ		台本にそった撮影・編集を行う		
72	作品上映会				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容60％、作品の完成度20％、出席率20％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			いかに柔軟な発想が出来るか、諦めずに実習に取り組む事。グループワーク一丸となりより面白い作品が出来るよう切磋琢磨する事。全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー			

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	俳優演技の基礎 1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
4～6	俳優演技の基礎 2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
7～9	俳優演技の基礎 3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
10～12	俳優演技の基礎 4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
13～15	俳優演技の基礎 5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
16～18	俳優演技の基礎 6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
19～21	俳優演技の基礎 7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
22～24	俳優演技の基礎 8 コロス		集団演技について		
25～27	演技発表 1 (実技試験)		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
28～30	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
31～33	演技実習 2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
34～36	演技実習 3 インプロ 1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
37～39	演技実習 4 インプロ 2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
40～42	演技実習 5 エチュード 1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
43～45	演技実習 6 エチュード 2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
46～48	演技実習 7 エチュード 3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
49～54	舞台公演 (実技試験)		簡単な芝居を想定した舞台公演		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
発表に対する評価40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	ビジネス社会学				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 企業のケーススタディーを中心に紹介する。 2. 企業が行った経営戦略を学ぶ。 3. 経営戦略から自身が考える授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	1.企業の基本的経営戦略を学ぶ。2.様々なケーススタディーを学ぶことで自身の理論を組み立てることが出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ケースブック経営戦略の論理（日本経済新聞出版社 伊丹敬之・西野和美）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	企業経営戦略の基礎		SWOT分析・ポジショニング・経営戦略の基礎（商品戦略・コスト戦略・差別化戦略）など		
4～6	戦略の顧客適合（キリンビール）		「ラガー」の生ビール化と歴史的逆転 P 5 4～P 6 5		
7～9	戦略の顧客適合（ドン・キホーテ）		驚きと感動を売る小売業 P 6 6～P 7 6		
10～12	戦略の顧客適合（花王）		市場を創造する商品開発 P 7 7～P 1 0 5（抜粋）		
13～15	戦略の競争適合（松下電器産業）		DVDレコーダーの断トツシェア戦略 P 1 0 6～P 1 1 6		
16～18	戦略の競争適合（船井電機）		低価格こそが武器（市場は米国に） P 1 1 7～P 1 2 5		
19～21	戦略の競争適合（三星電子）		日本企業の対米逆転・DRAM参入 P 1 2 6～P 1 6 1		
22～24	戦略のビジネスシステム適合（HOYA）		後発からトップシェアへのビジネスシステム P 1 6 2～P 1 7 1		
25～27	戦略のビジネスシステム適合（ミスミ）		購買代理店のコンセプトとその実現の仕組み P 1 7 2～P 2 0 3（抜粋）		
28～30	戦略の技術適合（島精機製作所）		メカトロニクスがファッションを提案する P 2 0 4～P 2 1 2		
31～33	戦略の技術適合（セイコーエプソン）		生産技術が事業展開をドライブする P 2 1 3～2 4 9（抜粋）		
34～36	見えざる資産（アスクル）		進化し続けるための情報蓄積 P 2 5 0～P 2 6 0		
37～39	見えざる資産（ローム）		見えざる資産の地道な蓄積 P 2 6 1～P 2 9 4（抜粋）		
40～42	戦略の資源適合（ファンケル）		資源蓄積を利用した新事業展開 P 2 9 6～P 3 0 4		
43～45	戦略の資源適合（シャープ）		戦略が資源を蓄積し、利用する P 3 0 5～P 3 3 9（抜粋）		
46～48	戦略の組織適合（トヨタ自動車）		初の米国輸出でのオーバーエクステンション P 3 4 0～P 3 5 1		
49～53	戦略の組織適合（アサヒビール）		長期低迷企業の再生 P 3 5 2～P 3 8 0（抜粋）		
54	試験		範囲：これまでの授業範囲		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験30%、レポート30%、授業での発言20%、学習意欲20%			各授業前に、教科書「経営戦略の論理」を読み込んで（指定あり）授業を受けて下さい。また、企業戦略を知るよりも、それを知ることで自身がどう考えたかが大事になります。授業では出来るだけ多くの発言を心掛けて下さい。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名	イベントプランニング基礎				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 小規模（キャパシティー200名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. 前期は企画から制作を中心に授業を展開し、後期以降はステージ舞台の基礎知識を養う。 3. まずは企画書が書けること。次にステージ舞台の制作運営がイメージ出来ること。				
学習目標 (到達目標)	小規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	イベントの基本的構想		組織づくり・スタッフ選定・予算枠決定・会期会場の決定・広報と動員計画		
4～6	イベント目的の設定・基本的コンセプトについて		目的目標の設定・テーマの設定・展開実施プランの作成・会場演出レイアウト・イベント内容・PRプラン		
7～9	マスコミ媒体・PR媒体・DMその他		告知方法・媒体決定・PR手段・招待・入場券手配・リスト準備・アンケート調査		
10～12	会場・展示・告知ツール作成		会場構成・装飾施工手配・出展物リスト作成・搬入搬出計画・来場者誘導計画・届け出について		
13～15	全体運営管理・責任分担と進行チェック		最終チェックポイント・出演者の確認・各スタッフ確認・マスコミ対応など		
16～18	効果測定と評価・実施予算集計と報告書作成		問題点まとめ、PR効果チェック・予算報告・イベント全体の報告書作成・次回への記録、情報集約		
19～21	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット・内容の作成		
22～24	企画書作成（広告・動員計画）		誰に、どのように情報を伝えるか。どこへアプローチして設定された動員数を集めるのか。		
25～27	前期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
28～30	台本作り		前期に作成した企画書をもとに台本作成を実施		
31～33	組織の在り方		プロデューサー・ディレクター・舞台監督・音響照明・美術など、それぞれの役割と関係性。		
34～36	舞台監督は裏の主役		イメージを現実には、舞台は危険がいっぱい・舞台監督は先を読み・スタッフは根 P8～P12		
37～39	芝居作りの基礎知識（舞台）1		舞台各部の呼び名・幕について・場転について・迫りについて・舞台と客席の境に P14～P24		
40～42	芝居作りの基礎知識（舞台）2		吊り物・照明関係の機構・床面について・装置を飾る P25～P28		
43～45	芝居作りの基礎知識（照明）1		主な照明の名称と略号・生明かりは舞台の空気・シーリングとトップ明かり P29～P35		
46～48	芝居作りの基礎知識（照明）2		明かりはフロントがポイント・バックは美しく・一条明かり・スポット・照明をあやつる P42～P50		
49～53	芝居作りの基礎知識（音響）		音も演技する・機材について・2C、2TC・音を広げる・耳で確認する P37～P73（抜粋）		
54	後期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
プレゼンテーション前期・後期80%、学習意欲20%			基本的な基礎知識が中心となるが、この知識が無いと舞台制作は出来ない。定期的実施する舞台や音楽イベントを制作運営するためにも必要なことであるため、しっかり身に付けるようにして下さい。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名	ダンス実技				
担当教員	MIE（中野 美恵）		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい姿勢、舞台で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 (到達目標)	1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	ストレッチ		基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。		
4～6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へ と行う。		
7～9	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		アイソレーション。リズムをとりながらステップ。		
10～12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		ステップ、ボディコントロールできるための練習。		
13～15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		ビッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。		
16～18	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練 習。		
19～21	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
22～24	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
25～27	テスト		グループ発表。		
28～30	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		前期の復習		
31～33	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)の課題。新しい振り付け。		
34～36	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)振付の続き。		
37～39	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
40～42	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
43～45	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
46～48	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
49～53	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンボの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
54	評価		課題曲に合わせて創作ダンス		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			進行状況に合わせて振り付も変えていく。身体的リズム感を養 うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高 めていく予定。		
実務経験教員の経歴		HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。			

科目名	著作権				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
4～6	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
7～9	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
10～12	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持 権・一身専属性 教科書P31～P41		
13～15	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信 権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
16～18	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
19～21	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
22～24	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無 償の上演・演奏・引用転載 教科書P83～P101		
25～27	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放 送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
28～30	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
31～33	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
34～36	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
37～39	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
40～42	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
43～45	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
46～48	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）		答え合わせおよび解説		
49～53	ビジネス著作権BASIC検定試験		直前に模擬テストおよび解説あり。		
54	評価		試験により実施（希望者は検定試験を実施）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%			芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。 教科書以外にも音楽ビジネスについての理解も深める。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

科目名	演技理論実技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	俳優演技の基礎 1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
4～6	俳優演技の基礎 2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
7～9	俳優演技の基礎 3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
10～12	俳優演技の基礎 4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
13～15	俳優演技の基礎 5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
16～18	俳優演技の基礎 6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
19～21	俳優演技の基礎 7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
22～24	俳優演技の基礎 8 コロス		集団演技について		
25～27	演技発表		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
28～30	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
31～33	演技実習 2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
34～36	演技実習 3 インプロ 1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
37～39	演技実習 4 インプロ 2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
40～42	演技実習 5 エチュード 1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
43～45	演技実習 6 エチュード 2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
46～48	演技実習 7 エチュード 3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
49～51	演技発表		発表会（エチュード）		
52～54	演技発表		発表会（エチュード）と総評		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	芸能ビジネス				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 芸能プロダクション業務を正しく把握する。 2. 芸能プロダクションに仕事内容や契約を正しく理解する。 3. 前期は芸能プロダクションのビジネス的基礎知識を修得し、後期はケーススタディーから各プロダクションのビジネス手法を学習する。				
学習目標 (到達目標)	芸能界におけるタレントの仕事内奥や契約について正しい知識を修得する。自身に合った芸能プロダクションを知る。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	芸能プロダクションについて		タレント発掘・育成・マネジメント		
4～6	芸能プロダクションの仕事内容		プロデュースおよびマネジメント・価値を高めエンターテインメントの創造に寄与する。		
7～9	タレント発掘について		オーディション・コンテスト・売り込み・スカウトなど		
10～12	タレント契約について		専属契約・包括契約・その他、著作権上の契約		
13～15	芸能プロダクション所属とフリーランスの違い		企業とのパートナーシップ関係と個人での活動展開について		
16～18	芸能界における報酬について		歩合制か固定制か・売れてもアルバイトを続ける理由		
19～21	タレントの権利 I		パブリシティ権について		
22～24	タレントの権利 II		実演家を持つその他の権利（隣接権）		
25～27	○ 前期評価試験		前期学習した範囲の復習（記述）		
28～30	アナウンス系芸能プロダクションについて		セントフォース・オフィストゥーワン・圭三プロ・三柱・フォニックスなど		
31～33	俳優系芸能プロダクションについて		テアトルアカデミー・スターダスト・ホリプロ・ユニマテ・研音など		
34～36	音楽系芸能プロダクションについて		アミューズ・鳥龍舎・エイベックス・ソニーミュージックアーティストなど		
37～39	お笑い系芸能プロダクションについて		浅井企画・太田プロダクション・オフィス北野・タイタン・プロダクション人力舎・吉本興業など		
40～42	タレント系芸能プロダクションについて		サンミュージック・松竹芸能・ワタナベエンターテインメント・マキセ芸能社など		
43～45	声優ナレーター系芸能プロダクションについて		アーツビジョン・IAMエージェンシー・青二プロダクション・81プロデュースなど		
46～48	モデル系芸能プロダクションについて		シャノワールモデル・オスカープロモーション・プラチナムプロダクション・ジャパンモデルほか		
49～51	後期評価プレゼンテーションⅠ		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
52～54	後期評価プレゼンテーションⅡ		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期評価試験30%、後期評価プレゼンテーション30%、企業レポート（全7回）30%、学習意欲10%			後期以降、授業毎にレポート提出があります。内容は、各プロダクションに関する企業規模や内容です。評価基準になりますので忘れないように。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴					
放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー					

科目名	ブランディング & SNSマーケティング				
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)	自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ブランド展開とは		選ばれる戦略		
2	市場リサーチとマーケティング		消費者の中の顧客		
3	宣伝とは		5 W1H・AIDMAの法則など		
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット		知名度に伴う誹謗中傷について		
5	Twitter・Instagram①		人気のあるSNSとは		
6	Twitter・Instagram②		フォロワー数をどう増やすか		
7	Twitter・Instagram③		どんな投稿をするべきか		
8	Twitter・Instagram実践		自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
9	Twitter・Instagram実践				
10	Twitter・Instagram実践				
11	Twitter・Instagram実践				
12	Twitter・Instagram実践				
13	Twitter・Instagram実践				
14	Twitter・Instagram実践				
15	Twitter・Instagram実践				
16	Twitter・Instagram実践				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			自身のスマートフォンを使用します		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名	PC&Webリテラシー				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係				
学習目標 (到達目標)	様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	画像・イラストソフトについて①		illustrator・photoshop		
4～6	画像・イラストソフトについて②		illustrator・photoshop		
7～9	画像・イラストソフトについて③		illustrator・photoshop		
10～12	画像・イラストソフトについて④		illustrator・photoshop		
13～15	動画ソフトについて①		Final Cut Pro		
16～18	動画ソフトについて②		Final Cut Pro		
19～21	動画ソフトについて③		Final Cut Pro		
22～24	動画ソフトについて④		Final Cut Pro		
25～27	レコーディングソフトについて①		Protools		
28～30	レコーディングソフトについて②		Protools		
31～32	レコーディングソフトについて③		Protools		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10%			自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名	演技実習				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	140時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 本番を設定した上で制作過程を学ぶ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演・その他、スタッフとして関わりなど総合的に演劇公演を開催する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
7～13	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
14～19	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
20～25	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
26～31	企画書作成		内容		
32～37	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
38～43	台本作成		資料収集		
44～49	台本作成		基本的構成決定		
50～55	台本作成		ラフ台本		
51～56	台本作成		直し		
57～62	台本作成		完成		
63～68	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
69～74	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
75～80	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
81～86	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
87～92	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
93～98	稽古期間		音響・照明プランニング		
99～104	稽古期間		音響・照明プランニング		
105～110	稽古期間		音響・照明プランニング		
111～116	稽古期間		最終チェック		
117～122	リハーサル		会場入り（通し）		
123～128	リハーサル		会場入り（通し）		
129～134	ゲネラルプローベ				
135～140	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名		修了制作公演					
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無		○	
対象学科		研究科	対象学年	1	開講時期		後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数		140時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 23日×6コマ+2コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施					
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演・その他、スタッフとして関わり					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布					
日数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）			
2	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）			
3	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）			
4	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め			
5	企画書作成			内容			
6	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他			
7	台本作成			資料収集			
8	台本作成			基本的構成決定			
9	台本作成			ラフ台本			
10	台本作成			直し			
11	台本作成			完成			
12	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成			
13	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成			
14	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成			
15	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成			
16	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成			
17	稽古期間			音響・照明プランニング			
18	稽古期間			音響・照明プランニング			
19	稽古期間			音響・照明プランニング			
20	稽古期間			最終チェック			
21	リハーサル			会場入り（通し）			
22	リハーサル			会場入り（通し）			
23	ゲネラルブローベ						
24コマ	本番			評価			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				卒業評価の対象となります。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年						

科目名		i-MEDIAゼミ						
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無		×		
対象学科		研究科	対象学年	1	開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。						
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1・2	スペシャルゲスト講師①			予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーザーなど				
3・4	スペシャルゲスト講師②							
5・6	スペシャルゲスト講師③							
7・8	スペシャルゲスト講師④							
9・10	スペシャルゲスト講師⑤							
11・12	スペシャルゲスト講師⑥							
13・14	スペシャルゲスト講師⑦							
15・16	スペシャルゲスト講師⑧							
17・18	スペシャルゲスト講師⑨							
19・20	スペシャルゲスト講師⑩							
21・22	スペシャルゲスト講師⑪							
23・24	スペシャルゲスト講師⑫							
25・26	スペシャルゲスト講師⑬							
27・28	スペシャルゲスト講師⑭							
29・30	スペシャルゲスト講師⑮							
31・32	スペシャルゲスト講師⑯							
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
授業態度と出席率で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。				
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー						